

---

# 夏と僕

音無 無音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏と僕

### 【著者名】

NZマーク

N6163P

### 【作者名】

音無 無音

### 【あらすじ】

夏と、ある男の子が、ある病氣に立ち向かう姿。

暑い

太陽の光が。

熱い

君の視線が。

暑い  
気温が。

熱い

熱が。熱さが。全てが。

暑い。暑い。暑い。

夏が。

夏が、終わる。

暑さと共に。消える。

消える、消える、消える。

命が、魂が、人生が、僕が。

世界と言つ名の物語から今、消えようとしている。

「嫌だ」ともがいたところで。

「やめて」と唸つたところで。

運命は、暑さは、消えない。

夏が、終わらない、秋が、終わりが、来るまで。

先生が言った。

「この夏が終わると、君も終わる」と。

夏は何時まで？

何処まで？

僕は何時まで？

何処まで？

わからない。

それが答え。

そんなてきとうな答えを求めたわけじゃない。

だけど、それが答え。

僕が終わる。

夏が終わる。

始まるものは、ない。

【あるよ】

“新しい君”と、秋が。

秋と、僕の終点が来る。

秋が始まり、僕が終わる。

僕は「終わりたくない」ともがくけど、

君が「始まりたい」と言つから。

きみのため、僕は終わる。

次、目が覚めたとき。

君と僕はすれ違いで。

迎えたかつたな、と溢れる涙。  
目が霞み、意識が朦朧とした時。

「終わる」

僕は冬に田を覚ました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6163p/>

---

夏と僕

2011年10月3日11時27分発行